

令和 5 年 4 月 5 日現在

機関番号：32705

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02668

研究課題名（和文）縦断調査に基づく保育士の早期離職に影響を及ぼす要因探索と早期退職抑制策の提案

研究課題名（英文）Exploration of Factors Influencing Early Turnover of Child Care Workers and Proposals for Measures to Reduce Early Retirement Based on a Longitudinal Survey

研究代表者

浅井 拓久也（ASAI, Takuya）

鎌倉女子大学・児童学部・准教授

研究者番号：10780570

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：研究開始後に新型コロナウイルス感染症が発生し、予定を大幅に変更することになった。縦断調査を実施するために様々な準備をしてきたが、感染症発生前後で養成校での保育実習の参加の有無が異なる等、早期離職に影響を及ぼすかもしれない養成校（就職前段階）での要因を探る条件が異なってしまう、当初の計画を変更することになった。しかし、こうした制限的な環境の中で実施した研究から、保育士が早期離職する要因は、職場の人間関係や給与等の就職後の要因だけでなく、就職前（養成校段階）の要因も関係している可能性があることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育士の早期離職の要因として、これまでは職場の人間関係や給与のような就職後の要因を中心に検討されてきた。しかし、こうした要因だけでなく、成績や実習の経験等の就職前（養成校段階）の要因も影響を及ぼしている可能性があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：Following the onset of the study, an outbreak of coronavirus arose, necessitating a significant revision of the research plans. Despite having made extensive preparations for a longitudinal study, the changing conditions at the training school compelled a modification of the original approach. The investigation sought to explore the factors that potentially influence early job turnover among childcare workers. Remarkably, the outbreak engendered variations in circumstances, including the participation of childcare workers in training before and after the emergence of infection, prompting an adaptation of the study design. Nevertheless, research conducted under these restrictive conditions revealed that the factors that give rise to early job turnover among childcare workers may relate not only to post-employment variables, such as salary and workplace relationships, but also to pre-employment factors at the training school stage.

研究分野：保育学

キーワード：早期離職 就職前要因 保育実習

1. 研究開始当初の背景

保育所保育の量的質的課題の解決には保育士の確保が欠かせないが、保育士の離職率は12.0%と高く現況は厳しい。特に、養成校卒業後の新人保育者の早期退職(就職後3年未満での退職)は多く見られ、保育の質向上はもとより、保育士としてのキャリア形成にも支障が生じている。

こうした事情を背景に、保育士の早期退職の原因や対策について様々な研究がなされてきたが、その多くは就職後の保育士を対象として、就職後時点に限定したものだ。例えば、調査者が所属する養成校の卒業生やある地域内の保育士を対象にして、現在の就労状況や退職理由を質問し集計するというものである。しかし、早期退職につながる要因は、就職後の要因だけではなく、養成校での学習や就職活動に関する要因が影響していることが考えられる。なぜなら、養成校は保育士を目指す最初の段階であり、また就職後まもなくして訪れるリアリティ・ショックをどのように乗り越える(乗り越えられない)かは、養成校の学習や就職活動を通してどのような保育士像や保育観を形成していたかが重要な役割を果たすことが予想されるからである。以上から、申請者は、就職後の就労状況に加えて、養成校入学後から卒業までの学習歴や就職活動歴を踏まえた縦断的な分析をすることでどのような要因が早期退職に影響を及ぼすかを明らかにし、その結果を踏まえて養成校段階でも早期退職を抑制するような実効的な対応策を実施することができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

昨今の幼児教育無償化による保護者の就労支援や質の高い保育所保育のためには、保育士確保が必要である。そのため、早期退職者の抑制は現代社会的にも学術的にも重要な課題である。しかし、保育士の早期退職につながる原因分析を行った既存の研究は、職場の人間関係や給与等、就職後に生じる要因に着目した分析が中心であった。また、保育士養成に関する研究は多くあるが、養成校での学習と卒業後に保育士を選択する(した)か否かの関係を分析する研究は限定的であった。

そこで、申請者は、養成校入学時点での希望就職先と実際の就職先の関係(浅井2017)、保育所実習前後での希望就職先の変化とその要因(浅井2018、浅井2019a)、保育所実習後の希望就職先との就職先の関係(浅井2019b)を明らかにしてきた。

これらの研究や、現在申請者が実施している保育士として就労している卒業生への面接調査の結果は、養成校での学習歴や就職活動歴は卒業後の保育士としての就労の継続可能性と関係があることを示唆するものであった。一方で、申請者のこれまでの研究は、入学時点と卒業時点の関係や、前期保育所実習後と卒業時点の関係のように、断続的な研究(図1内の点線部分の要因が考慮されていない研究)であり、また卒業してから1、2年後の実際の就職状況を含めた分析ではなかった。

3. 研究の方法

本研究の調査対象者は、2019年3月に養成校(4年制大学3校、短期大学3校)を卒業した保育士である。調査対象者に対して質問紙調査を実施する。まず、従属変数となる「卒業1年後の就職状況」については、現在保育士として勤務しているか否か、勤務している場合は今後も継続するか否かの可能性を質問する。次に、従属変数となる「就職前要因」は学習歴と就職活動歴に分ける。また、学習歴では保育所実習が学生の就職選択に及ぼす影響の大きさを踏まえて別途検討することとした。「就職後要因」については、全国保育士養成協議会(2009)による調査項目を参考にして、経済条件や労働環境に対する質問項目を設定し質問する。

以上を踏まえて、多項ロジスティック回帰分析(あるいは重回帰分析)によって就職前要因と就職後要因が「卒業1年後の就職状況」に及ぼす影響を明らかにする。なお、就職前要因の志望理由はテキストデータであるが、ダミー変数として分析する。具体的には、階層的クラスター分析によって得られたデンドログラムからカテゴリを抽出し、カテゴリに即して自由記述を自動的に2値データ化し集計する。2021年4月から2022年3月までの計画(卒業2年後の分析)

上と同様の方針で、多項ロジスティック回帰分析(あるいは重回帰分析)によって就職前要因と就職後要因が「卒業2年後の就職状況」に及ぼす影響を明らかにする。これによって、早期退職について就職前要因と就職後要因の影響を明らかにすることができる。

また、申請者はすでに養成校入学時から前期・後期保育所実習前後も含めて個別にデータを収集していることから、養成校入学から卒業2年後までの縦断的な調査・分析が可能になる。そのため、本研究では定量的な分析を中心とするが、複線径路・等至性モデリング(Trajectory equifinality modeling)を通じた定性的な分析によって、保育士の就職・離職に与える影響をより詳細に明らかにする。

4. 研究成果

研究開始後にコロナウイルス感染症が発生し、予定を大幅に変更することになった。縦断調査を実施するために様々な準備をしてきたが、感染症発生前後で養成校での保育実習の参加の有無が異なる等、早期離職に影響を及ぼすかもしれない養成校(就職前段階)での要因を探る条件が異なってしまう、当初の計画を変更することになった。しかし、こうした制限的な環境の中で実施した研究から、保育士が早期離職する要因は、職場の人間関係や給与等の就職後の要因だけでなく、就職前(養成校段階)の要因も関係している可能性があることが明らかとなった。

研究成果は以下の論文等にまとめた。

1 「保育者養成校学生のキャリア形成に関する予備的な研究 結婚と復職に対する考え方に着目して」

2 「保育者のキャリア形成の過程に関する研究(2) D 保育園園長によるクラス担任決定の判断過程について」

3 「養成校学生の就職先決定理由の分析 実習園を就職先とする事例に着目して」

4 「保育者のキャリア形成の過程に関する研究(1) 乳児クラス担任と幼児クラス担任の比較」

5 『保育者になるための初年次教育・キャリア教育』 6 『安心して仕事を任せられる！新人保育者の育て方』

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------